

## サウジアラビアの新型コロナウイルス対策 関連アプリとデジタルツールの普及



JCCME サウジアラビア事務所 副所長 内藤 祐太

新型コロナウイルスの影響により、世界各国の生活様式に大きな変化をもたらされた。サウジアラビアにおいても昨年4月にはロックダウンを経験し、政府機関や民間企業での在宅勤務の導入やデリバリーサービス等の普及が進むと共に、携帯端末用アプリケーションを中心としたデジタルツールの導入が急速に進むこととなった。今回、その中でもパンデミックを機にサウジ政府が導入し、駐在員にとって日々の生活において否応にも欠かせないツールとなった、新型コロナに関連する健康管理アプリケーション「Tawakkalna」、[Sehhaty] について実用例を交えながら簡単に紹介したい。

### 1. 「Tawakkalna」アプリケーションの提示義務化

まず初めに、サウジ生活を送る上で必須アプリとなった「Tawakkalna」について紹介する。簡潔には次の機能が備わっており、主な目的は感染や免疫保持の状況を身分証も兼ねて代わりに証明するものである。

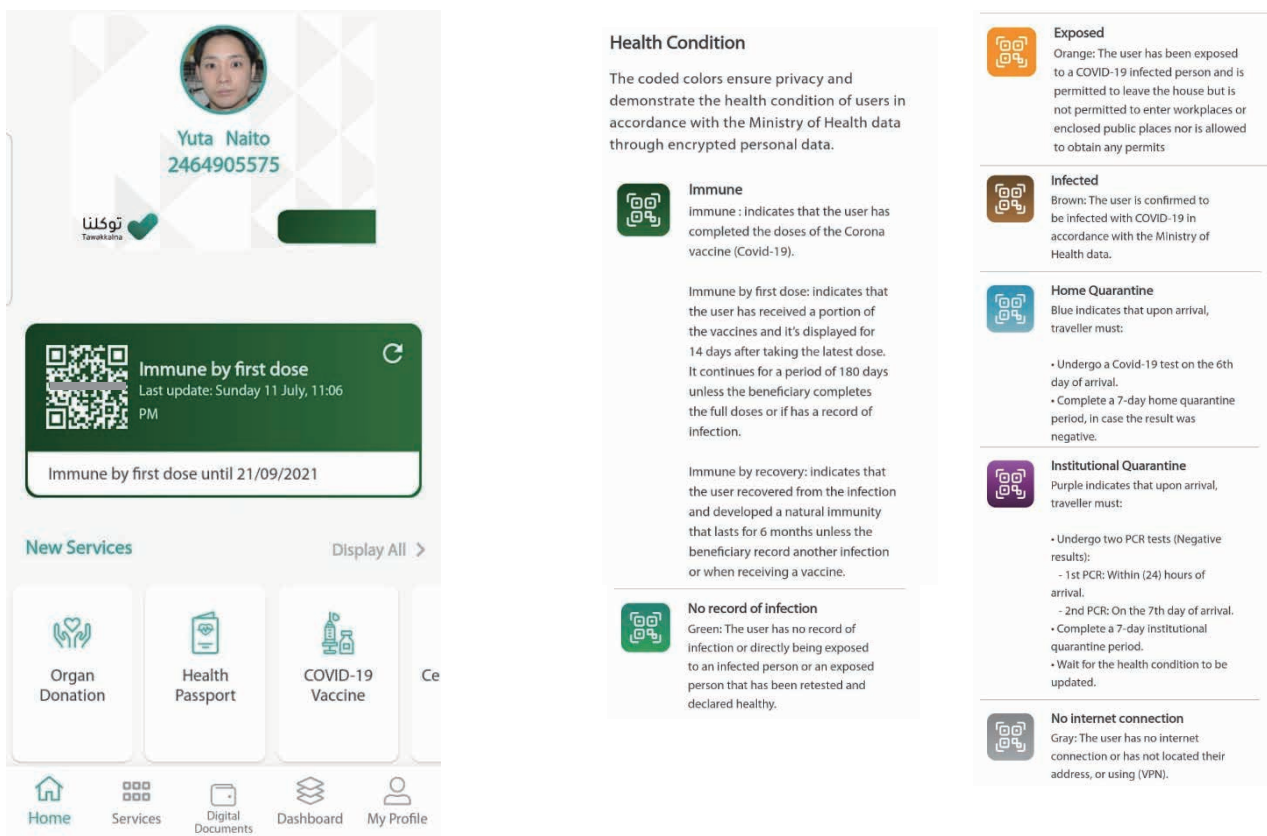
- (1) 氏名及び個人 ID 番号の表示
- (2) 色分けによる感染状況及びワクチン接種状況の表示
- (3) 公共施設への入場許可の申請
- (4) ワクチン接種証明書の表示（ワクチンパスポート機能）

「Tawakkalna」は、サウジアラビア・データ人工知能庁（SDAIA: Saudi Data and Artificial Intelligence Authority）が、ロックダウン期間中の外出禁止時における移動許可を発行するために昨年5月に開発、導入したアプリである。更新を繰り返しながら前述の機能をはじめ、救急車の出動要請、聖地巡礼の許可申請が追加され、遂には内務省のアプリで元々提供していた自動車免許証の表示や交通違反の通知、住所登録の変更等の個人情報管理機能も組み込みながら、統合型政府サービスアプリの体を成すまでに至っている。

とは言うものの、現時点ではスーパーや飲食店等の商用施設への入場の際に健康状況の証明に使用することが主な用途であり、係員が目視でアプリの画面を確認するか、店舗等

に設置されたQRコードを読み込んで電子的に入場許可を取得する方法で、感染者が入店できないように管理されている。本アプリはサウジ国内の医療機関又は公的な検査場で行われたPCR検査結果が保健省から自動的にデータ接続されるため、感染者及びその疑いのある者は一目で識別される仕組みとなっている。

また、現在はワクチンの1回以上の接種及び半年以内に感染から回復した場合、アプリ上で「Immune（免疫あり）」と表示されるが、8月1日からはその状態でなければ無感染者でも公共施設への入場ができなくなるという報道が出ており、今後一層人々の生活に必要な不可欠なアプリとなるだろう。



Tawakkalna アプリ起動画面

「Health Condition」の画面  
感染・免疫状況が7色で表示される（筆者は緑色 [画像中央]）

Tawakkalna (SDAIA)

筆者はワクチンを1回接種しており、Tawakkalnaアプリ起動画面は深緑で「Immune by first dose」という表示となっている。なお、男性は顔写真が表示されるが、女性はサウジの風習に配慮がなされ、顔をばかす選択ができる等、細やかな配慮がなされている。ちなみに、日本を含む世界75カ国でこのアプリが起動できるとのことで、アメリカやドイツ等では既に公認されており、ワクチン接種証明として使用できるそうである。

右側にある「Health Condition」の画面は、当初は感染の有無の表示であったが、現在は感染・免疫状況が7色で表示される。緑以外は入場拒否となる。視覚的にも分かり易い

が、アラビア語・英語表示が選択でき、外国人にとっても使い勝手の良い設計になっている。また、今後、国内の航空券がTawakkalnaにリンクされ、免疫保持者のみが電子チケットをアプリ経由で受け取れることになるという報道もある。アプリの機能が進化する一方で、海外からのワクチン非接種の帰国者は自動的に1週間の施設隔離の期間を示す紫色の表示となるが、隔離終了の条件となる民間検査機関によるPCR検査結果がアプリへ反映するのに時間が掛かったり、居住者以外の入国者のワクチン接種記録の登録ができなかったりと問題も度々発生している。

Tawakkalnaの提示はサウジの日常の風景となった。そのまま通ろうとすると強く止められるが、係員は流れ作業で対応しており、実際に中身まではあまり見ていない。大きな施設の入口では、アプリから店舗等のQRコードのスクリーンを行うと、アプリ画面に「Access Granted」と表示され入場が許可される。その後、係員の前で体温確認を行い入店する。街中では既に活気が戻っており、週末のショッピングモールはコロナ前の賑わいと変わらないものの、マスク着用は依然義務化されており、違反者には罰金が科される。



ショッピングモールの様子（筆者撮影）

## 2. 「Sehhaty」アプリケーションとPCR検査、ワクチン接種予約

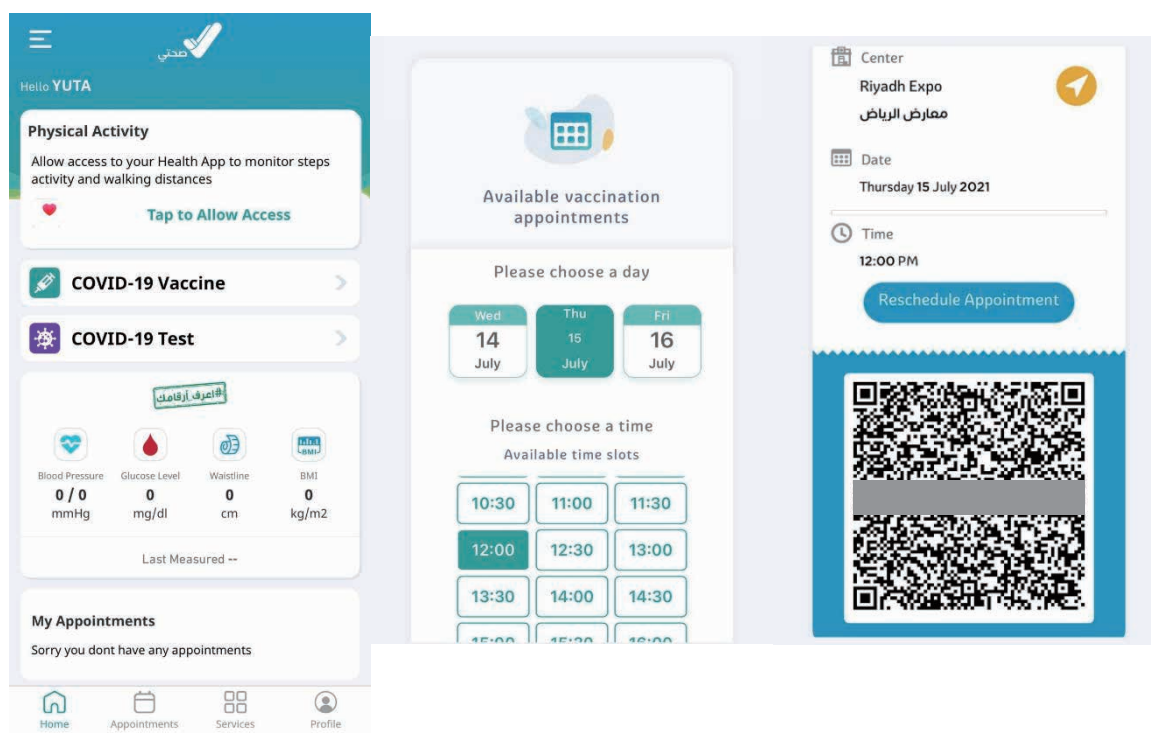
次に、保健省が提供するPCR検査とワクチン接種予約に特化した「Sehhaty」について紹介する。

当初は保健省の実施する無料PCR検査を予約するために導入されたが、現在はワクチン接種の予約機能も追加されている。

職種・年齢・疾患の有無による優先順でサウジ国民、外国人を問わずファイザー製、アストラゼネカ製のワクチン接種が進められてきたが、本稿を執筆しているタイミングで筆



者にも 2 回目の接種案内の SMS がサウジ保健省より送付されてきたので、ここで実際の予約画面を紹介したい。なお、7月13日時点でサウジのワクチン接種件数は2,000万件を超え、また人口の50%が1回目の接種を終えたそうである。



Sehhaty (Ministry of Health, Saudi Arabia/Lean business services)

Sehhaty アプリからの PCR 検査、ワクチン接種予約は至ってシンプルで、画面に沿って希望する日時、最寄りの接種センターを選択することで予約が完了する（国内には587カ所の接種センターがある）。予約後、接種者の情報が埋め込まれた QR コードが自動発行され、接種当日に接種会場で読み取ってもらうことで、接種記録が保健省を通して各自のアプリにも反映される。また、アプリ上に反映された接種情報より保健省の公式QRコードが記載されたワクチン証明書をダウンロードすることができ、国外での証明等に利用できる。

また、前述の Tawakkalna とも連動しており、Tawakkalna から Sehhaty の機能にアクセスすることも可能となっている。

ちなみに、ここまで整然とされたアプリ機能であるが、実際には筆者が1回目のワクチン接種のため予約した、ある町の小さなクリニックに行くと、予約時間を無視した人が殺到しており、QR コードを全く使用せず、接種と引き換えに名前と個人 ID 番号を書いた紙を係員に手渡すようなアナログ世界であった（大きな接種センターではきちんとデジタル管理されているようだ）。運良く後から接種情報がアプリに反映されたが、少しヒヤヒヤした。

### 3. 新型コロナ関連アプリを通してみるサウジのデジタル化

最後になるが、サウジの人口構成をみると35歳以下が総人口の67%を占めており、インターネットやデジタルツールが身近にある環境で育った「デジタルネイティブ」が人口の過半数以上を占めている。このことが社会全体の急速なデジタル化の進展の鍵となっているといえよう。

サウジでは石油依存型経済からの脱却と経済の多角化を目指す、ムハンマド・ビン・サルマーン皇太子（当時副皇太子）が作成した2030年までの経済改革計画「Saudi Vision2030」の元、あらゆる面で国家の変革が行われているが、デジタル化の推進も国家戦略の重点分野として、2030年までに通信・IT分野で世界トップ20の国となることを宣言している。既に5Gのインフラ整備・普及度では世界一を狙う位置につけている等、政府の本気度を伺うことができる。

今回紹介した健康管理アプリでは、トライアンドエラーをアプリのリリース後に繰り返しており、完璧に近い状態になって初めてリリースする日本的な進め方との違いを興味深く感じている。先に述べたようにアプリに問題が見られることもあるが、トラブルを広く許容できるサウジの国民性も、デジタル化の推進を後押ししているようにも思える。今回紹介したコロナ対策関連アプリの導入はその一例に過ぎないが、国民が急に導入されたアプリに振り回されながらも直ぐに受け入れていく姿は、政府主導の政策に導かれ未来へ突き進むサウジを表しているように感じる次第である。